

「対岸の火事」でなく「他山の石」に！
～地震によるコンビナート事故を想定した合同訓練を実施～

11月16日、八代港の大島石油コンビナート地区で、熊本保安部や防災関係機関、石油事業者、海運業者など、「熊本県排出油等防除協議会」の10機関、約100人が集まり、地震によるコンビナート事故を想定した大規模な合同訓練を行いました。

訓練は、東日本大震災を「対岸の火事」でなく「他山の石」として受け止めることが協議会の責務であるとの協議会会長の訓示で始まり、訓練に参加した各機関は、大量の油が流出した場合と油火災が発生した場合の2つの想定に分けて、油の防除や消火活動、人命救助活動などの訓練を行いました。

また、実働訓練に先立ち行われた海上保安庁横浜機動防除隊の防除措置官により、東日本大震災での防除活動の実際や油防除の基礎などについての講習会を行いました。



